

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
1	12.10(金)	山直北	発言者A	<p>スライド資料の19ページに、適正化に際しての必要な対応を列挙し、その中に「教員配置や部活動への対応」とあるが、小学校の教員が部活動の指導をするということか。</p> <p>現時点でも、教員負担が問題になっているが、小学校教員は放課後にも、学習面、生活指導両面での対応を行っている。</p> <p>小中一貫校の事例の中には、実際に小学校教員が部活動の指導に駆り出されているものがある。こうなれば、放課後、子どもたちに対応する時間がなくなってしまう。</p>	<p>基本的には現状と同様、中学校の教員が部活動を指導することを想定している。</p> <p>なお、先進事例においては、小学校教員の中で希望があれば、中学校の部活動を指導するケースも存在する。</p>
2	12.10(金)	山直北	発言者A	<p>部活動指導を希望しない小学校教員には、部活動の指導にあたらせないことを確約すべき。</p> <p>また、基本的には中学校の教員が指導するということが、（仮称）山滝小中一貫校においては小規模であり、教員数も増えない。よって、部活動の選択肢も増えないと思う。</p>	<p>現在お示しているのは、未確定の計画（案）であり、現時点では部活動指導に関する確約もできない。</p> <p>なお、現場での経験から、教員負担が非常に大きくなっていることは十分に理解している。計画（案）にある「部活動への対応」については、教員による対応が大きな負担となる場合、部活動指導員等、外部のお力添えもいただくことも含んでいる。</p>
3	12.10(金)	山直北	発言者B	<p>これまで、現市長は様々な住民説明会に一度も出席していない。市民に大きな負担を強いる施策の説明会には、市長が出席し、市民の声をダイレクトに受けるべきであり、次回以降の説明会では出席するよう願う。</p>	<p>【ご意見として承る】</p>
4	12.10(金)	山直北	発言者B	<p>2017年5月の総合教育会議から、適正規模・適正配置についての議論が開始されている。その後、2018年2月に現市長が当選し、同年5月の総合教育会議から、統廃合の方向へ急展開を見せている。また、同年11月の総合教育会議では、教育大綱（案）の文言について、取組の「推進」ではなく、「検討」または「取り組みます」とすべきという意見が、委員6名のうち4名から出されている。しかし、実際に策定された教育大綱では「推進」という文言になっている。</p> <p>どのような審議を経てこの決定に至ったのかが不明であるため、説明願う。</p>	<p>小・中学校の適正規模及び適正配置に関して、当初は教育委員会の中においても、委員間の意見が分かれており、ご紹介いただいたような経過を辿ってきた。</p> <p>しかし、以降も議論を重ねる中で、当時反対意見を述べていた委員を含め、教育委員会内で思いを一つにし、現在はこの取組が必要であると認識している。</p>
5	12.10(金)	山直北	発言者B	<p>審議会の最終回において、会長が「適正規模の考え方については標準的な目安を示したものであり、適正配置については現時点で考えられる方策を示したもの」「保護者、地域住民、ならびに町会等地域関係組織に丁寧な説明を行い、理解を得たうえで、地域と学校が両輪となって進めていくべきということは言うまでもない」「児童生徒の意見を十分に聞く機会を設けることも重要」と発言している。</p> <p>今回の適正化実施計画（案）に、これらがどのように反映されたのか。審議が不透明であり、議事録についても不透明となっている。既成事実として説明会を開催しているように、強引に計画が進められようとしている。</p> <p>このように、会議参加者の過半数から、結論と異なる意見が出た会議や、事後においても審議内容を明らかにしない会議の具体的な類似例をお示し願う。</p>	<p>審議会のような公に開催する会議については、基本的にすべて公開してきたところだが、例えば教育長室での打合せといったものは、内部での意思形成過程における会議である。これについては、未確定な情報の拡大によって、市民の皆様によらぬ混乱を招きかねないため、基本的には非公開で行ってきたところ。</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
6	12.10(金)	山直北	発言者B	<p>幼保再編に関する話にはなるが、行政が捻じ曲げられている事例を紹介する。</p> <p>2020年2月の総合教育会議において、教育長職務代理者が、民間園を運営する社会福祉法人の不祥事について言及している。それに対して市長は、岸和田市においてそのような不祥事があったかどうか聞き返している。教育長職務代理者は「聞いたことはありません」と回答している。</p> <p>しかし、この回答は事実と異なる。新聞報道等によれば、特定の社会福祉法人に関して、複数の不祥事があったとされている。中には、平成14年度の市議会において市民生活部長及び当時の市長が謝罪答弁を行っているものもある。これ以外にも、大阪府からの指導書が複数発出されていることを含めて多数存在する。</p> <p>メディアで何度も報道されているようなことを含め、知らないとは回答せざるを得ないということは、現市長の強権が庁内に吹き荒れているのではないかと。このように、行政が捻じ曲げられているのか否か、お示し願う。</p> <p>行政が捻じ曲げられているからこそ、市の要職にあった職員が「やってられない」という言葉を残して辞職していったものと考えている。行政不信を払しょくする回答を求めらる。</p>	<p>ご紹介された様々な処分案件については、承知しておらず、特定の事業者に対する言及についても、控えさせていただく。</p> <p>市長が強権的ではないか、というご指摘に関しては、昨日の市議会でも市長が答弁したように、総合教育会議は、教育長をはじめとする教育委員会と、市長とが対等な立場で互いに意見交換を行い、考え方を披露しあうものである。</p> <p>教育長及び教育委員会の考えは、市長から対等なものとして尊重されていると理解している。現在、教育委員会から市長に対して何か意見をされた際に、捻じ曲げられるようなことは一切存在しない。今後も対等な関係に立ち、議論していく。</p>
7	12.10(金)	山直北	発言者B	<p>2020年2月の総合教育会議において、市長は「義務教育期間の9年間の一貫教育については、まずはその目的や効果・影響等を十分に調査・研究をしていただいた上で、今後判断していきたい」と発言している。</p> <p>これまで何度も紹介してきたが、イェナプラン教育やマイプラン学習といった取組について、日本の公立校で行われてきている。また、OECDやEUにおいては学級あたりの人数が20人以下であり、さらなる少人数化に進んでいること、成績優秀だが学校に通学できない「浮きこぼれ」問題、聞こえていないのに意味が把握できない「APD（聴覚情報処理障害）」、黒板は見えるが教科書が見えない近視視力の問題等、多様な子どもたちに対するケアを含む各種調査・研究をどのように行ってきたのかお答え願う。</p>	<p>ご紹介いただいた事例や、子どもたちが抱える様々な課題については、今後の研究課題とさせていただきます。</p>
8	12.10(金)	山直北	発言者B	<p>全小学校の1/4という、急激な統廃合を行っている他市の事例をお示し願う。</p> <p>また、幼小連携を謳いながら、いずれも大幅に廃止をする中で、具体的にどこでどこで幼小連携を行うのか、また、それは現在と同じであるのかをお答え願う。</p>	<p>現在、隣接している幼稚園と小学校との連携をはじめ、保育所や私立園についても、小学校との連携を図っている。</p> <p>今後、施設のあり方が変わったとしても、小学校と、それらの就学前施設との間で連携していくこととなる。</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
9	12.10(金)	山直北	発言者B	<p>保護者や児童生徒、教員からも、12～18学級が望ましいというアンケート結果を得ているという説明があったが、ここには学校統廃合に関する言及はない。実態は理想論を尋ねたアンケートにも関わらず、教育委員会が勝手に読み替えた根拠をお答え願う。</p> <p>様々と述べてきたが、これらに対する回答がされないようでは、市民にとっては騙し打ちを受けたという印象を、教育委員会だけでなく、市政全体に抱かざるを得ない。</p>	<p>平成30年9月、「岸和田市立小中学校の適正な規模や配置を検討するにあたり、法令等による基準だけでなく、本市の特色や実情を踏まえるための参考として、学校現場に最も関わる教職員、保護者、児童生徒の意見を集約する」という目的で、アンケート調査を実施した。</p> <p>その時点では、学校の統合を含む具体的な適正化に関して記載していないが、どういった学校規模が望ましいのかを純粋に伺うことが、このアンケートの趣旨であったと認識している。</p> <p>アンケート結果だけでなく、審議会答申、国の手引等を総合的に鑑みたくて基本方針を策定し、その基本方針を基にたたき台としてお示ししているものが、今回の実施計画（案）である。</p>
10	12.10(金)	山直北	発言者C	<p>山直北小学校は適正な学校規模だと思うが、そこからわざわざ大きくしていく意味が理解できない。</p>	<p>仰るとおり、山直北小学校は適正化対象校ではない。ただし、今後の推計をみると、児童数は減少していくと想定している。</p> <p>隣接する城東小学校及び山直南小学校が小規模化している状況を踏まえ、どのような適正化案が望ましいのかを総合的に鑑みた結果、今回の計画（案）をお示ししている。</p> <p>各学校の規模や配置バランス、通学距離、地域コミュニティ等を踏まえ、中学校区を適正化の単位としており、仮に中学校区を超えて学校を再編するとなれば、さらに大きな影響が及ぶと考えている。</p>
11	12.10(金)	山直北	発言者C	<p>中1ギャップの解消策の中で、教科担任制を挙げていると思うが、それは施設分離型で取り入れればいいのか。小・中学校が一体化しなければいけないのか。</p> <p>校舎も耐震化されているし、教室への空調も入っている。学校を統合して取り壊すよりも、今の形を維持する方がよいのでは。</p>	<p>小中一貫教育基本方針に基づき、すべての中学校区で小中一貫教育を行っていくが、現在も一部教科担任制は取り入れている。</p> <p>今回の計画（案）が仮に進んだ場合、例えば（仮称）山直小学校は山直中学校と物理的な距離が非常に近いため、小中一貫教育を行う上で一層の利点がある。</p> <p>小中一貫校だけでなく小中一貫教育に取り組むのではなく、分離型の小・中学校でも取り組んでいく。</p>
12	12.10(金)	山直北	発言者C	<p>地域においては、現在も見守り隊の方々や通学路の安全確保に取り組んでおり、また、学童のボランティアと一緒に遊んでくれる等、様々な関わりがある。学校が遠くなれば、こまめに取り組める人が減ってしまう。</p> <p>子どもたちにとっても、通学距離が延びてしまう。こうした課題に対する具体的な解決策が示されないまま説明を受けても、信用しにくい。</p>	<p>地域の皆様のご協力により、子どもたちの安心安全が確保されていることに感謝申し上げます。</p> <p>今後、見守り隊の方々を含め、地域の皆様と継続的に協議を重ねていくが、その際には、学校が仮に閉校となった場合のあり方についても、十分にご意見を伺いながら検討していきたい。</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
13	12.10(金)	山直北	発言者C	<p>適正な学校規模の学校は学力が高く、そうでない規模の学校は学力が劣るのか。そんなことはないように思う。</p> <p>学校の規模だけで学力が上がるとは思えないが、もしそのような事例があるなら教えてほしい。</p>	<p>個々の学校における学力テストの結果については公表を差し控えるが、岸和田市全体をみると、学校規模の大小と、学力テストの結果の高低における相関性はみられない。</p> <p>小中一貫教育は、市全体の学力向上に向けた取組の一つであるご理解願う。</p> <p>なお、適正規模・適正配置の取組は、学力向上だけを主眼としたものではない。協調性や社会性、コミュニケーション能力を身につけることができる場所が学校だと捉えており、小規模校においては、そうした「生きる力」を育む機会が限られてしまうと危惧していることから、一定の集団規模を確保すべきと考えている。</p>
14	12.10(金)	山直北	発言者D	<p>小学校に近い幼稚園への転園を考えており、資料を取り寄せたところ、適正化の取組について知ったのだが、ほぼ決まっているように感じられた。</p> <p>不安に思いながら説明会に参加したが、肅々と進みつつあるようにも感じられた。</p>	<p>本来であれば、今年の1月から実施計画（案）を周知する地域説明会を開催するつもりであったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、11～12月の開催に至っている。この間、地域や保護者の皆様に周知する機会をなかなか得にくかったが、例えば動画配信及び問い合わせフォームの設置によりご意見を伺う等、可能な範囲で周知に取り組んできたところ。</p> <p>この計画（案）については確定事項ではなく、あくまでもたたき台である。地域や保護者の皆様から様々なご意見をいただき、それらに対する教育委員会の考え方も十分に説明し、課題や心配されることの解消を図っていく。</p>
15	12.10(金)	山直北	発言者D	<p>一定の集団規模が大切ということは理解でき、自分も小規模な小学校で育ったので、中学校進学時には衝撃を受けた。</p> <p>ただし、コロナ禍において、感染拡大が起こったときには大きな学校の方が大きなダメージを受けるのではないかと懸念している。感染対策については考えていただきたい。</p>	<p>現在でこそ少し落ち着いているが、新型コロナウイルス感染症の第5波においては、市内の学校においても臨時休校に見舞われてきた。誰か一人でも感染者が出た場合、臨時休校という取扱いをしてきたが、感染経路の多くは不明であった。</p> <p>市内で臨時休校となった学校をみると、大規模でも臨時休校となっていない学校、小規模でも臨時休校となった学校があるなど、学校規模との相関性は一概にみられなかった。</p> <p>現在も保健所の指示や、国や府のガイドラインに基づき感染症対策を継続しているところだが、人数を減らすべきといった指示は出ていない。また、小学校の35人学級編制については順次進めていく。</p> <p>なお、適正規模・適正配置の取組は、マンモス校をつくるものではなく、適正な学校規模をめざすものということにご理解願う。</p>
16	12.10(金)	山直北	発言者D	<p>支援が必要な児童生徒、保護者、そして教員の負担が増大するのではないかと心配している。</p> <p>以前に比べると、発達障害等、きめ細かくみてくれると聞いているので、学校規模が大きくなることで見過ごされることのないよう、教員や支援員を増やしていただきたい。</p>	<p>支援が必要な児童生徒については、学校規模に関わらず、どの子どもに対しても丁寧に対応していく必要があると認識している。定数に合わせて必要な学級を設置し、教員を配置していく。</p> <p>また、サポートをしていただく特別支援教育指導員についても、可能な限り配置を進めていく。</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
17	12.10(金)	山直北	発言者D	<p>少子高齢化が進む中、いつかは学校の統廃合があるということは現実として理解しているが、学校がなくなり、校区が拡大することによる安全面のリスクや、地域のあり方が変わってしまい、人口流出のリスクもある。その校区から学校がなくなってしまうのでは、何のために家を建てたのか、といった声も聞く。</p> <p>子どもたちにとっての教育や、地域づくりを考えたときに、身近な地域に学校がないことは不幸なことだと思う。</p> <p>地域愛を育むような「新たな科」を考えているとのことだが、子どもたちは地域をどうという目線で見ていくのが気になる。自分たちにとっての中学校校区が小学校区になるということで、非常に広いという感覚がある。</p> <p>スクールバスの見送りだけが見守りではなく、現在見守り隊として活動している高齢者の方々にとって、子どもを目にする機会が少なくなってしまうことは寂しいことだと思う。</p>	【ご意見として承る】
18	12.10(金)	山直北	発言者E	<p>個人的には小中一貫校に魅力を感じていない。</p> <p>（仮称）山滝小中一貫校では、認定こども園を併設するという一方で、0～15歳の子どもたちがともに学ぶということだが、以前の説明会では山滝中学校はグラウンドが狭く、思う存分スポーツができなかったという意見もあった。なぜその場所に設置するのかかわからない。</p> <p>地域への配慮について言及しているが、岸和田市の地域性は独特。だんじり祭りがあり、各町の意地がある。小学校同士においても、校区対抗のスポーツカーニバルといった特色がある。</p> <p>他の自治体や国が進めることに右へ倣えの姿勢ではなく、岸和田の独自性を持ってほしいと思う。学力がすべてではないと思うし、小・中学校それぞれに良さがあるのに、統合することには反対。幼稚園と保育所も同じように、それぞれに良さがあると思う。</p> <p>校区が分断される辛さについての意見もあったが、個人的にも隣の校区と一緒にすることには抵抗感がある。</p> <p>小規模な学校で兄弟のように育てていることや、地域住民と近い関係でいることも良いことだと思う。ここまでは意見。</p> <p>質問だが、仮に学校が統合された場合、これまで各校のPTAで貯めてきた会費はどうなるのか。</p>	<p>PTA会費については、各校において、様々な名目で積み立ててきたものだと認識している。</p> <p>仮に学校が統合した場合の取扱いについては、まずは各校のPTAの皆様で主体的に議論すべきだと考えている。教育委員会から一方的に方向性を決めるべきものではないと認識している。</p>
19	12.10(金)	山直北	発言者F	<p>PTA会費については、全国の事例をみると、記念誌を発行する等して費消し、新たな学校には引き継がないケースが多い。また、新たなPTAの運営資金として、各校PTAから同程度の金額を残すこともある。</p>	【ご意見として承る】

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
20	12.10(金)	山直北	発言者F	<p>アンケートをもう一度取ってほしい。</p> <p>（仮称）山直小学校では、長きにわたり適正な学校規模を上回る規模で推移する。文科省がめざす30人学級が導入された場合、学級数はさらに増加する。このような大規模校を設置することについて聞いてほしい。</p> <p>小規模校においては、学校がなくなることについても聞いてほしい。対象者は前回のアンケート調査と同程度でいいので、改めての実施を要望する。</p> <p>12～18学級という学校規模は、学級数だけをみれば適正と言えるが、小規模校には小規模校の良さがある。</p> <p>前教育長が、審議会の会長として呼んだ大学教授は、小規模校の研究者。以前は和歌山大学に在籍していたが、和歌山大学の附属小学校では、複式学級を取り入れている。そうした研究をしていた方。</p> <p>そのような研究をしている教授を呼んだ理由としては、小規模校であっても良い学校になるという意見を出してほしいからだと推測している。それが現在のよう形になったのは市長の影響ではないかと思う。</p>	<p>アンケートの実施についてはご意見として受け止め、今後の検討の中で必要性を判断する。</p>
21	12.10(金)	山直北	発言者F	<p>これまで、岸和田市単独での少人数学級を導入するつもりはない旨の説明を受けてきた。その理由は一定理解するが、その中で、小学校よりも、課題のある中学校への教員加配を望む。これについては大阪府も行っていることから、岸和田市で行うことも問題ないと思う。</p>	<p>生徒指導加配等を積極的に活用し、中学校において、しっかりと学習できる環境を整えていきたい。</p>
22	12.10(金)	山直北	発言者F	<p>ある市議会議員が市長に対して、なぜ説明会に出席しないのか尋ねていた。市長は、教育長をはじめ教育委員会の幹部が出席しており、教育委員会から話を聞くので出席の必要はないといった答弁をしていたように思うが、説明会に参加した住民や保護者の発言を聞くと、ほぼ全てが反対意見である。その声、住民が納得していないことを市長に伝えてほしい。</p>	<p>市長が説明会に出席すべき、といったものを含め、いただいたご意見については毎日のように市長へ伝達している。</p> <p>また、これまでいただいたすべてのご意見については、要約を公表する予定であり、市長にも読んでもらう。</p>
23	12.10(金)	山直北	発言者C	<p>質問ではなく、要望として。</p> <p>岸和田市を住みたいまちにする工夫をしてほしい。多様な子どもがいることはわかっているし、東葛城小学校の特認校、天神山小学校・幼稚園の連携と幼稚園給食の導入等、良い取組も行われている。保育所では皆でだんじりを観に行き、地域の方々と触れ合うようなことも行ってきた。また、学校と隣接した幼稚園がこれだけ多く存在する自治体はなかなかない。そういったことを大切にしてほしい。</p> <p>空き家の問題も言われているが、岸和田市は海から山の自然に恵まれ、また都会的な部分もあるなど、本当に魅力的なまちだと思う。若い世代の人に移住してもらえよう、例えば明石市の子育て施策のような工夫を試みた上で、それでも児童生徒数が減ってしまうのであれば、学校の枠組みを考え直すといった姿勢でお願いしたい。</p>	<p>【ご意見として承る】</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
24	12.10(金)	山直北	発言者G	<p>子どもの未来に投資するものなので、金額は決められないと思うが、この取組にはどれくらいのお金がかかるのか。</p>	<p>この計画（案）が仮に進んだ場合、学校が閉校となることから、年間約1億円のランニングコストが縮減されると見込んでいる。また、学校が残っていた場合にかかる見込みであった維持修繕費用も不要となる。</p> <p>校舎の建替及び改修に際しては費用がかかるが、校舎のレイアウト等は今後決定する事項であり、協議の中で、教育のさらなる充実のために必要な設備が出てくる可能性もあるため、現時点で具体的な費用の算出は困難である。</p>